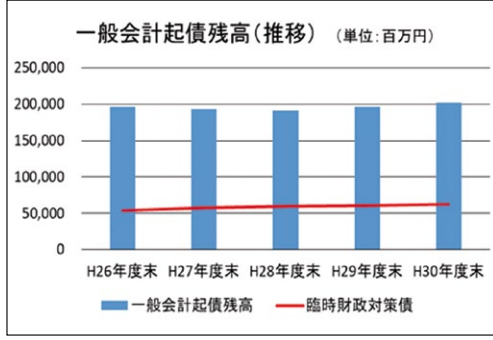


平成30年度決算を認定しました

9月定例会では、平成30年度決算の認定議案3件が提出され、いずれも賛成多数で認定しました。



しかし、今後も公債費負担が高水準で推移するなど、厳しい状況が続くことから、決算をもとに今後の財政運営等について質疑が行われました。

収支不足の改善について

問 令和4年度までの5年間に見込まれる収支不足について聞く。

答 財政健全化プランでは、収支不足額117億円のうち、平成30年度分として9億円の収支不足を想定していたが、基金を取り崩すことなく4億7千万円余りの黒字を確保した。

問 財政の硬化化について

問 経常収支比率が平成29年度の96・3%から30年度98・4%と悪化し、財政の硬化化が進んでいる要因について聞く。

答 要因としては、給食センターやオーテピアの開設、人事院勧告等に伴う人件費・物件費の増、民間保育所や認定こども園運営費負担金に係る扶助費の増、国の地方財政状況調査作成要領の見直しに伴い、投資的経費等の一部を経常経費へ振り替えたことが挙げられる。

財政見通しについて

問 今後の公債費負担について聞く。

答 近年、緊急防災・減災事

業債を活用し、新庁舎の建設、学校や保育園施設の耐震化、消防署等の建設など南海トラフ地震対策を積極的に進めているため、起債残高は再び増加に転じている。

問 公債費の支払いは、令和6年度ごろまで180億円前後の高い水準で推移する見通しであるが、昨年度策定した財政健全化プランに基づき、今後10年から20年の中期の目標として、一般財源などで公債費を負担する比率である実質公債費比率で10%未満、将来の債務負担割合である将来負担比率で140%未満を掲げ、中期で取り組んでいく。

問 将来負担額の各項目の特徴や課題について聞く。

答 一般会計等の地方債残高および公営企業債等繰入見込額の残高は、今後は緩やかに減少すると想定している。

問 予算決算常任委員会での質疑

問 中山間地域の振興を図る地域振興基金の取り崩しについて聞く。

答 中山間地域が実施していた事業のうち、地域振興基金の利息を財源に充当していたソフト事業は、過疎債(交付税措置

のある起債)を充てられるようになってきている。しかし、過疎債を財源として充当できる期間は不透明(時限措置)であり、今後は過疎債を使えなくなる可能性もあることから、基金の取り崩しについては慎重に対応していく。

問 収益事業特別会計について、特別競争の開催がなければ、収益の改善ができないのか。

答 特別競争がない場合は、これまでも記念競争で収益を上げており、今後もさまざまな取り組みで黒字を確保していきたい。

問 水道事業会計について、漏水調査は管路総延長のうち、どの程度実施しているか。

答 布設して10年以上が経過した管路を対象としており、昨年度は総延長約1500キロメートルのうち、3分の2に当たる1009キロメートルを調査し、漏水箇所380件の修繕を行った。

問 施設型病児保育事業の現状と、新規補助事業の訪問型病児保育事業を委託事業にする考えはないか。

答 スペース等の課題により、施設型の定員増や、新設は簡単ではない。民間事業者による、訪問型事業に補助金を創設し、利用者負担を施設型と同額にすることで、利用者増を期待している。

審議日程(9月定例会)

11日 開会

17日 市長提出議案提案理由説明

個人質問

川村 貞夫(新こうち未来)

迫 哲郎(日本共産党)

平田 文彦(保守・中道クラブ)

長尾 和明(市民クラブ)

島崎 保臣(日本共産党)

18日

岡崎 邦子(市民クラブ)

高木 妙(公明党)

福島 明(保守・中道クラブ)

はた 愛(日本共産党)

深瀬 裕彦(市民クラブ)

19日

高橋 裕忠(山嶽会)

大久保 尊司(公明党)

戸田 二郎(新こうち未来)

岡崎 豊(市民クラブ)

20日

横山 公大(保守・中道クラブ)

西森 美和(公明党)

浜口 佳寿子(日本共産党)

下本 文雄(日本共産党)

24・25日

常任委員会

30日

予算決算常任委員会全体

2日

常任委員長報告 採決

追加議案提案理由説明 採決

閉会